

マイナ保険証を 健康づくりに 役立てよう



マイナ保険証 と医療DX

医療費が増大する中、医療の効率化を図るため、国では医療DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進しています。医療DXとは、デジタル技術を使って国民の健康増進や、よりよい医療の提供等を目指すもので、マイナンバーカードの保険証利用(マイナ保険証)はその基盤となるものです。具体的にどう便利なのか、どのように活用するとよいのか、その一部をご紹介します。

病院の受付にかかるとき

オンライン資格確認システムに登録されたマイナ保険証の加入者情報を照会します。

- カードリーダーに置くだけで、加入者資格があるか、本人かどうかなどがわかる
- 病院側の負担も減り、受付がスムーズ

診察を受けるとき

患者が同意すれば、医師は患者の過去の診療情報や、健診結果などを閲覧することができます。

- 情報に基づいた適切な医療が受けられる
- 負担の大きい検査を何度も受けなくてすむ



薬をもらうとき

患者が同意すれば、医師・薬剤師は患者の過去の薬剤情報を閲覧することができます。

- 成分の重複した薬や、のみ合わせのよくない薬の処方を防げる
- 電子処方せんであれば直近の薬剤情報も利用できる



医療費が高額になるとき

自動的に窓口の支払いが自己負担限度額までになります。

- 「**限度額適用認定証**」(自己負担を限度額までに行ける証明書)が**不要**に。健康保険組合への面倒な申請もナシ

オンライン診療を受けるとき

オンライン診療でも患者が同意すれば診療情報や薬剤情報を医師に提供できます。

- 電子処方せんを導入している医療機関であれば、すぐに薬局へ送信できるので、オンライン服薬指導や薬の発送がスムーズ

子どもを受診させるとき

学校健診の結果や予防接種歴等、自治体と医療機関との情報連携も進んでいます。

- これらの情報もマイナポータルに登録されているので、スマホがあれば、受診の際に内容を確実に伝えることができる

自分の診療・薬剤情報を 知りたいとき

自分の医療情報は医師だけではなく、マイナポータルから自分でも見ることができます。

- 過去5年分の診療・薬剤情報が確認できるので、初めてかかる病院などで、既往歴や服薬歴を正確に伝えられる

自分の健診結果を 知りたいとき

40～74歳の人は特定健診の結果をマイナポータルから自分でも見ることができます。

- 過去5年分の健診結果をいつでも確認できるので、生活習慣改善などに役立てることができる

※40歳未満の方も、データが提供されていれば健診結果を確認できます。

災害時など緊急で 病院にかかるとき

マイナ保険証が手元になくても緊急時に医療情報を閲覧できるシステムがあります。

- 名前や生年月日などの基本情報だけで薬剤情報などが確認できる。薬の名前がわからなくても大丈夫

